

茅ヶ崎セントラルクリニック

遠藤 洋斗 (臨床工学技士 / 臨床工学科)

功 績 今年度、経費削減の方針を打ち出してから、個人としても委員会としても最も多くの経費削減案を打ち出し、他の委員会、部署を巻き込みながらプレゼンテーションを行い、実際に組織を動かすに至った功績。

推 薦 者 若林陽盛

推 薦 理 由 臨床工学技士としての基礎的な仕事に加え、健育会グループが職員に対して求めるone teamのその先、our teamの実践ができていること、そして経費削減を具体的に推進したことを推薦理由として挙げさせていただきます。

内 容

遠藤は臨床工学技士として、セントラルクリニックに入職して5年目の職員です。昨年度、SDGsメンバーにアサインされ、加えて今年度より開始された管理職養成研修に自ら手上げて参加している、とても前向きな意欲のある若手です。

今年度当初より、経費削減の全体方針が打ち出されると、遠藤はすぐに自らさまざまな経費削減アイデアを言語化し、所属しているSDGsメンバーと共有します。その際、管理職養成研修で学んだ、『アイデアは単純な思い付きではなく、根拠をしっかりと持つこと。それで人は動く』原則に乗っ取り、全ての経費削減のアイデアに対して、検証、シミュレーションを行いました。

結果、①透析時の手袋事前準備の見直し②電子カルテバックアップ時間の短縮による残業減③透析終了後の回路外しの時の手順見直し④臨床工学技士の携帯電話の解約⑤エアコン設定温度の統一化⑥透析個人用コンソールの透析液見直しの6点に関して、セントラルクリニックの経営状況に多大な良い影響を与えました。

すでに結果として表れているのは②の電子カルテバックアップの時間短縮による残業減(看護師残業代月▲1万5千円)、④臨床工学技士の携帯解約(通信費月▲4千円)、⑥個人用コンソールの透析液見直し(月▲2万円)となっており、その他の経費削減案も徐々に結果がついてくると考えられます。

経費削減のアイデアを多く発出することも素晴らしいことですが、最も功績として素晴らしいのは、あらゆる職種、会議体を巻き込みながら、自らの情熱を相手に伝え、納得の上でそのアイデアを形にしたところです。

遠藤のこの行動は、今年度健育会グループが掲げる3つの柱のうちの一つ、経営に多大な影響を与えたことから、理事長賞に推薦させていただきます。